傳神開手
北齋漫畫二編
全
2

張東壁堂藏板画譜畫手本目録

たのしまさるに物見てまねくせをあつめ拾ひ此さかし
の絵をとらへるよりてしるしたる行く常しあふき
はきみがかくさも物不かはずすきは山水をかける
けさりの隅川よがよく奥あるいはむし樹木めくる
をしへてころ中にりたよるかけなるもた
みせきよ本の右つらそ人に法人のよかき絵ち
まきらくわかしくるたき人の偶けるやまかつり
こちくしきかりねしの為くしき法師のうよ
よけせなにふかのもてりかやすくましの伊志しえ

むさしのゝひろくしきいくちのみのところ
なるうつきの花ひとたひ見るみちをよし
おく雲くる夜やるひと乗行てそのまゝ馬のくち
とりえんのとえりとりちゆかりえんとゝつる縁えんかき
いえる事きくえんもやうかちかそふつくりかゝぬりあまた人
ねんやうしきゝあまかつきめとまひ人数あつまる吉備
ゆひくさはなくるさまいぬるさはやうしくきまくの
なくらえそひさとめつゝいきてえくゝかくきおわゆる
この絵師となれはそことそふる此くゝ人の上手なるま

ゑかけるに絵の精ゑかきしまことや山のひとつの様をと
りうじしくこゝろをうつしたふ人ハ、こゝろの行の
北辰をひやふとくさゝ、めでたき星の田つある風を
なひくをさかし次しなるかの花うけ伏見山か
みく猫、ゐのみも世人くいうしう一ならだ此ぬし
の絵をみれバ、なさ絵を見るにわなかおかしていつくく
まあみまれくすてさや興あることでかなまた
ゆるらは人よりおそすきはわかくく　おかし
こゝろかはいまさいかゝる志ゆゑこそと　世元て

たのしさはつらまさるたぐひ筆の絵はしうち
ゑがれさくおもきしくわれまふまやけらむ

六樹園しるす

ほうおう
鳳凰

龍(りう)

應竜
雨竜 あまりう
蚺蛇

釋迦
出山
跋陀羅尊者
鳴神
頼豪

注荼半託迦尊者
那伽犀那尊者
跋羅駄闍尊者
空海
浄蔵坊

因掲陀尊者
目犍連
頭香

半諾迦尊者
伐那婆斯尊者

地獄（ちごく）

ふうせん
風舟

水車（みづぐるま）

へいだ
大とびで
やせ
おとこ
うば

維摩居士

西壁之像

奉納

庚甲塔
講中

東

もくれん
はらん
たちあほひ
くさふぢ

とうまる

いたち

きんぎよ
めだか
ふな
はや
どぜう

あまだい
こち
あんこう
ひらめ
たちのうを
ぼら

このしろ
かます

つぶざめ
いさし
あなご
あおりいか
らぢく

奇浪

引波（ひきなみ）

渦巻水
うづまきみづ

浅瀬

花烟草
はなたばこ
とんぼう
けむし

白澤

貘(ばく)

三玉れし亀

點竄指南録　全十五冊

此點竄法と云ハ日用の筭法歩合割利足莫求積田畑取箇等の諸算法より起て天元演段諸約翦管招差逆越角術圓理弧背に深術にいたるを此法によらずしてあぐる事なし能得する時ハたとへバ節用の玉篇あるを懐中しておるが如し兼用に臨じて乗除の業をせざる時ハ此法に仍て其術原を探るときハ速に本術を得るあり初学の為に古今の筭題を集め数ごとに本術を施し別に點竄法に仍て其術原を詳にし其用法を示せし

尾州名古屋本町七丁目
永樂屋東四郎板